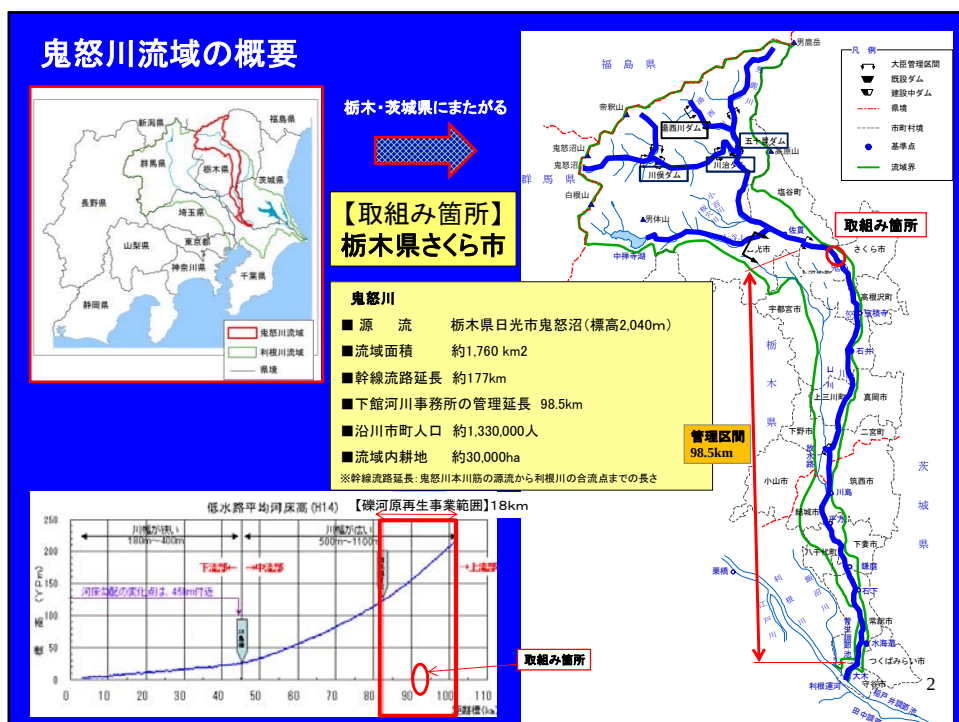
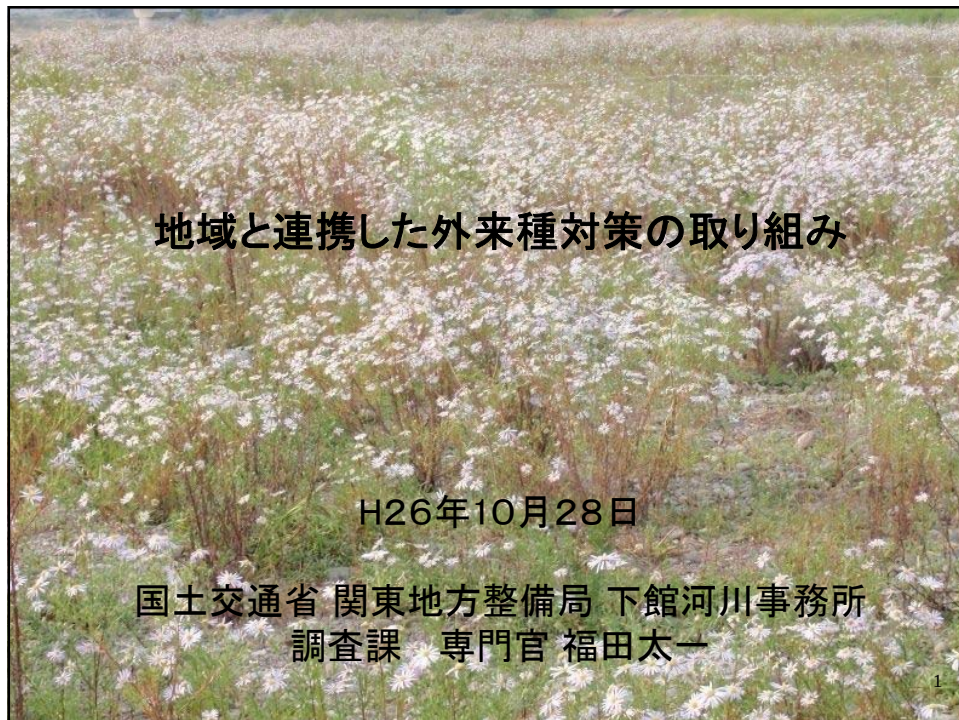




背景と鬼怒川礫河原再生

鬼怒川中流部の課題

●環境の課題

- ・外来植物の繁茂（特にシナダレスズメガヤ）
- ・礫河原・礫河原固有生物の減少

●治水・利水の課題

- ・取水施設への導水不良
- ・側方浸食や局所洗掘
- ・橋梁等の不安定化



シナダレスズメガヤに覆われた礫河原



望ましい礫河原のイメージ

礫河原再生の考え方

整備前
シナダレスズメガヤ等

整備中
外来植物の除去及び砂州の切り下げ

整備後
礫河原固有植物等

出水発生
砂州の溜水（かくみ）

- ・砂州を切り下げ冠水頻度を上げる
- ・外来植物を除去する
- ・大礫堆により複列流路を形成・維持する

「鬼怒川礫河原再生検討委員会」を設置し検討(H16-21) → 「礫河原再生計画案」

※治水・利水・環境のバランスがとれた河道再生

礫河原固有生物の生息・生育に適した礫河原

通さない河原

礫河原の減少・外来植物の急増

礫河原分布の経年変化

年	自然裸地(礫河原等)	植生域	施設用地等	水域	その他
S22(1947)	72.7%	8.1%	21.0%	0.2%	
S41(1966)	65.2%	11.3%	23.2%	0.3%	
S60(1985)	56.0%	16.8%	25.1%	2.1%	
H21(2009)	37.8%	37.8%	23.4%	1.0%	

増加

約1/2に減少

シナダレスズメガヤ等、河道内の植生域が急速に増加（約6倍）

自然裸地(礫河原)範囲が約1/2に減少

よって、礫河原固有生物の生息・生育地(ハビタット)減少

カワラノギクの急激な減少

シナダレスズメガヤの急激な増殖

カワラノギク

鬼怒川103.5km付近には、カワラノギクの大規模な生育地があった(約10万株が生育)が、平成13年にはほとんどが消失し、わずか110株程度となった。

原因は、礫河原の減少、及びシナダレスズメガヤの繁茂と考えられる。

東京大学保全生態学研究室資料

【廣谷いつみ】

カワラノギク(絶滅危惧2種)

シナダレスズメガヤ(要注意外来種)

活動の経緯

H8年度頃～	東京大学が高水敷の一部を実験サイトとし、カワラノギクの保全研究
H13年度 ～ H21年度	カワラノギク保全対策検討会 鬼怒川自然再生検討委員会 鬼怒川河道再生検討委員会 鬼怒川礫河原再生検討委員会
H21年度～	鬼怒川の外来種対策を考える懇談会

H15年度から活動
H16年度から委員会に加わる
うじいえ自然に親しむ会

H20年度から活動
H21年度から懇談会に加わる
押上水神会



カワラノギク～環境省RDB絶滅危惧ⅡB類～
シルビアシジミ～環境省RDB絶滅危惧ⅡB類～

【市民団体の活動内容】

- ・シナダレスズメガヤ等の除去(通年)
- ・カワラノギクの種まき
- ・カワラノギク、シルビアシジミの鑑賞会
- ・カワラノギクの種子採取
- ・環境学習
- ・ホタル等その他様々な自然観察会



シナダレスズメガヤ除去活動状況

現状の課題

懇談会での意見、アンケート結果を踏まえて

【市民団体の活動上の課題】

- ・活動を行う**人数が足りない**
- ・子どもたちが部活動などで**集まらない**
- ・メンバーの**固定化、高齢化**
- ・**子供を対象**にしたわかりやすい資料が必要
- ・学校での環境学習等の**機会の増加**が必要
- ・他地域の活動情報を**知りたい、参加したい**
- ・外来種の**問題が知られていない**

}

人手不足・
次世代との繋がり

}

情報発信・
共有の不足

6

課題解決の視点

持続的な地域連携のためには

●活動を支える人材確保・組織体制づくり

老若男女、多くの方に知ってもらい、参加人数の増加を図る
活動の継続性を考慮し、特に若い世代の参加増を図る
足元の地元住民どれだけ周知、理解してもらえるか
小・中・高等学校などの教育機関との連携

●情報発信・情報共有

様々な手段を用いた広報（ホームページ、広報誌等）
他地域の団体との相互連携

●活動に対する理解、やりがい

外来種対策の必要性について、粘り強い普及啓発をし、活動の意義を伝える
好奇心をくすぐる、知的満足度の向上
社会的な意義の理解



とにかく、取り組みを知ってもらうための行動

7

知ってもらうために①

①礫河原再生事業の目的等の説明

②外来種対策の概要説明と取り組みへの理解

③懇談会への参加呼びかけ



輪の拡大を図った

●沿川自治体との連携

●沿川学校との連携・環境教育等

●近隣市民団体との連携

8

知ってもらうために①-2

懇談会への参加団体の変遷

氏名	役職	H21年度		H22年度		H23年度		H24年度	
		第1回 H22.3.8	第2回 H22.12.10	第3回 H23.3.4	第4回 H23.11.17	第5回 H24.2.22			
市民団体	うじいえ自然に親しむ会	○	○	○	○	○			
	さくら市ガールスカウト第20団	○	○	○	○	○			
	押上水神会	○	○	○	○	○			
	とちぎMPGパイロットクラブ		○	○	○	○			
	宇都宮シルビアシニアを守る会				○	○			
	平石カワノギクを守る会				○	○			
	今市の自然を知る会				○	○			
	氏家ロータリークラブ				○	○			
	たかはらさくら青年会議所				○	○			
	大久保まちづくり推進委員会					○			
教育機関	オキナグサを守る会					○			
	栃木県立 宇都宮白楊高等学校			○	○	○			
	さくら清修高等学校				○	○			
	さくら市立 押上小学校			○	○	○			
	氏家小学校				○	○			
学識者・専門家	南小学校				○	○			
	東京大学大学院農学生命科学研究科	○	○	○	○	○			
自治体	日本野鳥の会	○	○	○	○	○			
	栃木県 河川課	○	○	○	○	○			
	自然環境課								
	環境課								
	さくら市 学校教育課	○	○	○	○	○			
	都市整備課								
	宇都宮市 環境保全課			○	○	○			
	河川課								
	高根沢町 環境課			○	○	○			
	塩谷町 産業振興課			○	○	○			
河川管理者	日光市 環境課			○	○	○			
	下館河川事務所	○	○	○	○	○			
団体数		8	9	15	23	25			



懇談会の状況



当初8団体



25団体に拡大

9

懇談会参加団体の位置図

協同箇所には、約35km離れた日光市内の団体なども参加



鬼怒川の外来種対策を考える懇談会ネットワーク図

10

知ってもらうために②

●パンフレットの作成・配布 → 懇談会メンバーに自由に活用してもらう

- ・鬼怒川れき河原の自然を守る(行政向け)
- ・私たちのシナダレスズメガヤ対策(一般向け)
- ・シナダレスズメガヤ除去マニュアル(一般向け)
- ・鬼怒川の自然を守ろう(小学生向け)
- ・作業カレンダー(一般向け)



知ってもらうために③



HPアップ例 第6回 鬼怒川の外来種対策を考える懇談会開催

長野事務所長挨拶

懇談会全景

東京大学鷲谷教授・須田研究員

オキナグサ

カワラノギク

■日時:平成25年2月7日(木) 14:00~
 場所:さくら市喜連川公民館
 参加者:うじえ自然に親しむ会・押上水神会
 東京大学保全生態学研究室・日本野鳥の会
 さくらガールスカウト第20団・とちぎMPGパイロットクラブ
 宇都宮シルビアシジミを守る会・平石カワラノギクを守る会
 今市の自然を知る会・大久保まちづくり推進委員会
 オキナグサを守る会・栃木県・さくら市・宇都宮市・塩谷町・
 下館河川事務所・日光砂防事務所

■今年度の活動報告と次年度の活動計画の報告を受けた後、各団体が抱える環境保全活動に関する疑問や悩みを解決するために、活発な意見交換を行うことが出来ました。
 また、栃木県からは当該地区を含めた自然環境保全地域指定に向けた紹介があり、さらに市民・研究者・行政の3者が連携して取り組んでいけるものと期待しています。

懇談会開催状況

ミヤコグサ 13

HPアップ例 「うじえ自然に親しむ会」
★シナダレスズメガヤ抜き取り&カワラノギク観察会を実施★

加藤会長挨拶

石井特任助教の説明

説明を熱心に聞く参加者

■日時:平成24年10月14日(日)
 場所:東大カワラノギク実験区(鬼怒川左岸92.6km)
 参加者:うじえ自然に親しむ会
 東京大学保全生態学研究室(石井助教)外
 押上水神会
 さくらガールスカウト第20団
 とちぎMPGパイロットクラブ
 宇都宮白橋高等学校
 さくら清修高等学校
 下館河川事務所他 約50名

■「うじえ自然に親しむ会」の主催により、多様な参加者のもと、東大カワラノギク実験区において、シナダレスズメガヤ抜き取りと、カワラノギク観察会を行いました。
 4月15日に種まきをしたカワラノギクがしっかりと芽吹いていました。
 晴天に恵まれ、心地よい汗をかきました。

抜き取り作業状況

14

HPアップ例 「うじいえ自然に親しむ会」
★シナダレスズメガヤ抜き取り&カワラノギク観察会を実施★②



松田副会長の説明

1年目で開花したカワラノギク

4/15に種まきをしたカワラノギクの状態

作業後、昼食のひととき

意見交換会の状況

15

HPアップ例 氏家小学校シナダレスズメガヤ除去活動



加藤会長の説明を熱心に聞く子供達

シナダレスズメガヤを抜く子供達

シナダレスズメガヤを抜く子供達

16

■日時:平成24年1月25日(水)
場所:東大カワラノギク実験区
参加者:氏家小学校;生徒160名、先生4名
東京大学保全生態学研究室1名(石井助教)
うじいえ自然に親しむ会2名(加藤会長他1名)

■さくら市立氏家小学校の5年生160名が、環境学習の一環として、東京大学保全生態学研究室とうじいえ自然に親しむ会の協力を得ながら、東大カワラノギク実験区にてシナダレスズメガヤ除去を行いました。

HPアップ例 鬼怒川れき河原の自然を守る
～地域の力で、カワラノギクの咲く河原を目指そう～

秋の鬼怒川自然観察会(平成23年10月16日) 東京大学試験地(鬼怒川左岸92.6km)



東京大学の鷺谷教授による挨拶と意義の説明



シナダレスズメギヤを手にする西廣助教と説明する鷺谷教授



参加者によるシナダレスズメギヤの抜き取り作業



現地に設置されている看板



カワラノギク



モーターパラグライダークラブによる空撮

【最近の活動状況】 「うじいえ自然に親しむ会」 1/2
★シナダレスズメギヤ抜き取り作業・カワラノギク観察会・勝山鍋・情報交換会を実施

■日時:平成25年10月13日(日)
場所:東京大学カワラノギク実験区
参加者:うじいえ自然に親しむ会
東京大学保全生態学研究室(石井助教)外
東邦大学理学部生命環境科学科(西廣准教授)
とちぎMPGパイロットクラブ
宇都宮白根高等学校
桂川・相模川流域協議会
下館河川事務所他 約80名

■「うじいえ自然に親しむ会」の主催により、多様な参加者のもと、東京大学カワラノギク実験区において、シナダレスズメギヤ除去と、勝山鍋・情報交換会を行いました。

当日は、素晴らしい快晴のなか、石井特任教授からカワラノギクや、シナダレスズメギヤ除去の必要について説明をいただき作業に入りました。

除去作業の途中休憩では、松田先生よりツマグロキチョウやカワラバタ等、生きている状態で見せていただき説明をいただきました。

除去作業後は、勝山鍋に舌鼓をうち、情報交換会を行いました。近況報告や活動の課題など、活発に意見が取り交わされました。参加された皆さん大変お疲れ様でした。

加藤会長挨拶



集合状況

石井特任助教の説明



カワラノギク



抜き取り作業の後、みんなで集合写真



案内看板



シナダレスズメギヤ抜き取り作業状況



「うじえ自然に親しむ会」 2/2
★シナダレスズメガヤ抜き取り作業・カワラノギク観察会・勝山鍋・情報交換会を実施

カワラノギク開花状況(シナダレスズメガヤ除去後)



情報交換会の状況



皆さんからの報告状況等



勝山鍋をいただきながらの昼食風景













19

やりがい、効果

■うじえ自然に親しむ会
 平成23年度「みどりの日」自然環境功労者**環境大臣表彰**
 貴重な自然や身近な自然などの保全のため特色ある活動を推進した者等

社会的に認められる

■押上水神会
 2010年度エイジレス・ライフ実践者及び社会参加活動事例
内閣府の表彰

環境保全活動に功労

年々増加

環境保全活動参加者の推移

年度	年間参加人数	延べ参加人数
H15	88	88
H16	87	175
H17	140	315
H18	296	611
H19	532	1143
H20	704	1847
H21	1142	2989
H22	1469	4458
H23	1978	6436

■栃木県立さくら清修高等学校
 H24NHK全国高校放送コンテストで、当該保全活動をテーマに県予選で優良賞

市民がまもる生物多様性
 Biodiversity Protected by Citizens

名古屋COP10でも配布

明日めざして 道徳 6

道徳の教科書に載る

20

HPアップ例

「うじいえ自然に親しむ会」
★河川功労者団体として表彰される★



平成二十四年 河川功労者表彰



表彰を受ける加藤会長

河川功労者団体の賞状

■日時:平成24年5月25日(金)
会 場:砂防会館(東京都千代田区平河町)
出席者:うじいえ自然に親しむ会 加藤啓三会長

■公益(社)日本河川協会から、多年にわたる地域の貴重種保全活動や外来植物の除去活動、各種自然観察会の実施、小学校等での環境授業等の活動が認められ、「河川の自然保護・環境学習・河川愛護等の活動に功績があった」として、河川功労者表彰を受けました。

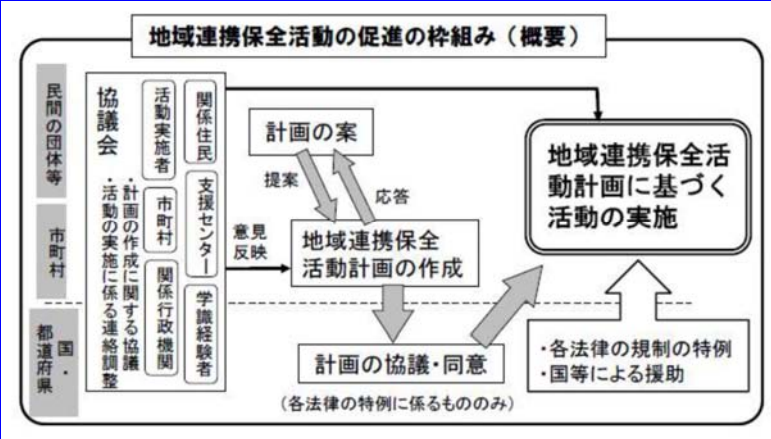
地域を愛し、自然を愛する取り組みが満載です、ぜひご覧下さい。
うじいえ自然に親しむ会ホームページ
<http://www16.ocn.ne.jp/~ujisizen/sinchaku.html>

21

生物多様性地域連携促進法と役割分担

H23.10.1施行

地域連携保全活動の促進の枠組み(概要)



民間の団体等
協議会
活動実施者
関係住民
市町村
支援センター
学識経験者
都道府県
国・

計画の案
提案
地域連携保全活動計画の作成
意見反映
計画の協議・同意
(各法律の特例に係るもののみ)

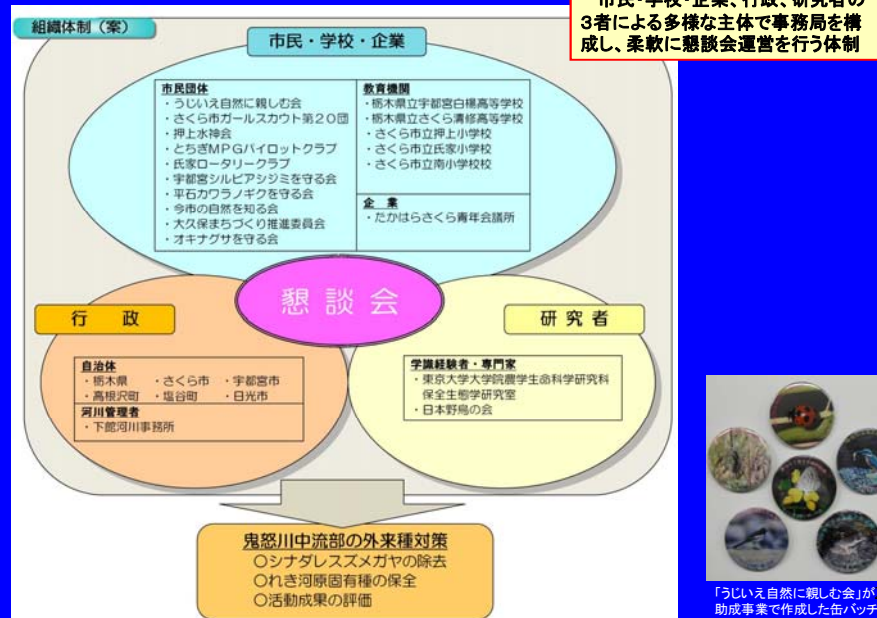
地域連携保全活動計画に基づく活動の実施

・各法律の規制の特例
・国等による援助

市町村………地域連携保全活動を促進する中心的かつ積極的な役割
都道府県………情報提供や技術的な助言等の必要な援助を行う等
国………既存の活動がさらに発展して地域の活性化に繋げられるような支援
市民活動団体………活動の実施面における中心的な役割
教育・研究機関、専門家………科学的な知見に基づいた地域連携保全活動の実施や専門的な知識を活かした役割
地域住民………地域連携保全活動への積極的な参加・協力
農林漁協………豊富な知識を活かし、活動の場において技術等の協力や指導
土地の所有者や管理者としての実施面の主体的役割

22

組織体制と役割分担案



今後の課題・方針

- ①多様な主体で柔軟に懇談会を運営
 - ②小中高校生の参加拡大と、交通手段・安全管理の確保
 - ③老若男女、幅広い年齢層の人材確保
 - ④企業が参加するような仕組み作り
 - ⑤やりがい、自分の成果確認ができるマップ等の作成
 - ⑥地元の人が気軽に参加し、地域愛に繋がる楽しい仕組み
- ・・・等



地域と連携した取り組みの強化・発展

